

令和6年度 第4回 経営協議会議事要録

1 日時 令和7年3月31日（月）13時45分から16時00分

2 場所 日亜会館会議室

3 出席者

（学外委員） 植田委員、梅田委員、長岡委員、結城委員、米田委員
（学内委員） 河村学長、河野理事、松木理事、藤本理事、香美理事
（陪席） 三好監事、井関監事

4 協議事項

(1) 令和7年度予算額(案)及び予算編成方針(案)について

松木理事から、協議事項1資料により、令和7年度予算額(案)及び予算編成方針(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

委員の主な意見は以下のとおり。（○学外委員、●学内委員）

○運営費交付金の減額により教員数が減少している。教員数を増やす施策を行っているのか。

●人事院勧告により、給与が上がり、新規採用が困難な状況である。今回、J-PEAKSの採択により人員の増員を計画中である。それに伴い、科研費や各種助成金の獲得を推進し、教育研究体制の維持を図ることを考えている。

●人件費の予算配分については、人事院勧告に準拠できる人件費を優先的に確保する、学長裁量経費を人件費や経常経費への充当に充てるために減額する、また運用益の部分も教員の不足に充てるなど計画している。研究力というのは、教員数の充足が必須だと考えており、教員数だけは確保できるような方針の予算編成としている。

(2) 令和7年度資金管理計画(案)及び基本ポートフォリオ(案)について

松木理事から、協議事項2資料により、令和7年度資金管理計画(案)及び基本ポートフォリオ(案)について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

委員の主な意見は以下のとおり。（○学外委員、●学内委員）

○運用の方法だが、いかに運用益を増やすかということが重要である。今は金利上昇局面で運用期間に問題があり、期間が長い分は金利が高くなり、

利息収入は増える。運用益を増やすために、投資期間を延ばす考えはあるのか。

- 現行ルールでは最長15年の運用となっている。電力債等、流動性を確保しながら高利回りのものを選定している。特に、安全性を重視したポートフォリオを組んでおり、リスクを抑えつつ安定した収益を確保することを目指している。

(3) 徳島大学の外部資金獲得状況について

松木理事から、協議事項3資料により、徳島大学の外部資金獲得状況について説明があった後、外部資金獲得に向けての意見交換を行った。

(4) 国立大学法人徳島大学規則の一部改正について

藤本理事から、協議事項4資料により、国立大学法人徳島大学規則の一部改正について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 大学病院の経営及び運営の現状と課題について

香美理事から、協議事項5資料により、大学病院の経営及び運営の現状と課題について説明があった後、大学病院の経営等について意見交換を行った。

5 その他

・学長から、大学の近況について報告があった。引き続き、本協議会全体を通して、あるいはその他大学に対して意見等あれば伺いたい旨の発言があった。

委員の主な意見は以下のとおり。(○学外委員、●学内委員)

○教員をこれ以上減らさない、できれば増やしたいという方針を実現するにはどうすればいいのかということだが、決め手は、事務組織の見直し、簡素化が唯一の解決策ではないか。

やはり国の時代は、大変重厚な事務手続きが作られていたので、それに見合った非常に数の多い事務職員が配置されており、まだその体制が引き続いている。

- 大学の業務に対して、今AIの技術というのが非常に進歩している、そうしたAIの技術等も駆使しながら、さらに事務職員の業務効率化等も考えていく必要があるかと思う。本学では、RPAのシステム等も導入している。それを検証しつつ、また新たなものについても導入していき、業務の効率化を図っていきたい。

○今回、非常に良かったなと思うのは、法務担当理事を入れられるということ。民間企業では、営業、管理、ガバナンスのバランスが重要だとされており、セクハラやパワハラ、サイバーセキュリティなどの問題が深刻化している。これらの問題を解決するための対策が重要である。また一方で、人材の確保や経費削減も重要であるが、同時に、従業員の働き方改革やシステムのセキュリティ強化など、人材とシステムを守るための対策も必要。そのため、専門家を入れてガバナンス強化することで、大学経営の安定化に繋がると思う。

次回の経営協議会は、令和7年6月に開催することとなった。

以上